

JFIR 公開ウェビナー（オンライン開催）

「ウクライナ軍事侵攻の行方—今問うべき日米欧の役割とは」のご案内

この度、日本国際フォーラムは、**8月24日（水）**に下記要領にて公開ウェビナー「ウクライナ軍事侵攻の行方—今問うべき日米欧の役割とは」を開催いたしますので、ご案内申し上げます。

ロシアによるウクライナ侵攻から6ヶ月が経過しましたが、いまだ戦闘が終結する見通しはたっていません。世界中に衝撃を与えた「ブチャの虐殺」をはじめ、ウクライナ国内では多くの市民が命を奪われ、国土が破壊されています。また、多くの方が国外への避難を余儀なくされています。こうしたなか、日本はもとより、米欧を中心とする西側諸国は、ウクライナへの軍事的、経済的、政治的、人道的な支援を行う一方で、ロシアに対しては制裁を実施し、力による現状変更を許さないという強い姿勢を内外に示してきました。

欧州では、ドイツの外交安全保障の「転換」が謳われ、スウェーデン・フィンランドのNATO加盟が近づくなど、第二次世界大戦後の秩序が変わろうとしています。他方、この戦闘が長期化の様相を見せるなかで、エネルギーのロシア依存度が高い欧州諸国のリスクが顕在化し、西側諸国の結束に懐疑的な見方も出てきております。今後、この戦争はどこに向かい、国際秩序にはいかなる影響を与えるのでしょうか。日米欧のリーダーシップが引き続き問われています。

そこで今次ウェビナーでは、軍事侵攻当日（2月24日）に開催した公開ウェビナー「ロシア・ウクライナ情勢への日米欧の対応」の登壇者が再び集い、戦闘開始からちょうど6か月目となる同日に、戦争の現場である欧州を出発点に現状と今後の展望について報告し、その後、参加者を交えて議論いたします。

当日は、欧州班アドバイザーの**岩間陽子・政策研究大学院大学教授**、欧州班班長代理の**鶴岡路人・慶應義塾大学准教授**、メンバーの**合六強・二松学舎大学准教授**、**東野篤子・筑波大学教授**が登壇します。司会は欧州班班長の**細谷雄一・当フォーラム上席研究員・慶應義塾大学教授**が務めます。

なお、本ウェビナーは当フォーラムが2020年より組織する「『自由で開かれたインド太平洋時代』のチャイナ・リスクとチャイナ・オポチュニティ」研究会のうち、日本と価値観を共有し、今後協力を深めていくべき「欧州」を切り口として研究会課題に取り組む「欧州班」の活動の一環として開催されるものです。

記

1. 日時：2022年8月24日（水）16時から18時まで（Zoom開室は15時50分から）
2. 開催形式：オンライン形式（Zoomウェビナー）
3. 参加費：無料
4. 使用言語：日本語
5. プログラム：https://www.jfir.or.jp/220824_program/
6. 申込方法：webフォーム（<https://forms.gle/FzNyvbuYcx629Ttx8> ※上記QRコード）からアクセスするか、または、下記「出席回答用紙」に必要事項を必ずご記入の上、メール（jfir@jfir.or.jp）またはFax（03-3589-5120）にて**8月22日（月）**までにお申し込み下さい。お申込みいただいた皆様には、会合前日までにメールにて、Zoom参加URL、パスワード等の詳細を送信いたします。



出席回答用紙（2022年8月24日（水）公開ウェビナー）

送信先：公益財団法人日本国際フォーラム事務局（担当：伊藤、安井）

問合せ先：jfir@jfir.or.jp までお問合せください。

出席します

御芳名

御肩書

御連絡先（TEL）

（FAX）

E-mail